

〔入江文書〕豊後國岩室村。地頭職高政規跡規爲勳功賞塚崎次郎貞重可令知行者天氣如此悉之以狀

建武元年十一月二十五日

左衛門權佐花押

〔田文〕豊後國高田名門田邑知行坪付分錢

三拾貫文内 一上田四段半分錢六百二十文

爲成本略中

天文十八年丑八月廿五日

丹生田丹後守年次

吉弘左近大夫

同小田伊豫守殿

〔西遊雜記〕日出の城下に至此所は木下侯の御居城也千勝御知行二万五千石の城下ながら上方筋と違ひて宜しからず土人の物語に御領地十四ヶ村にて租米漸六七千石ならでは納らずといひぬ御城は小城ながら四方の堅有所にてあしからず頭成に行此邊の交易所にて商船の入津も見え市中五百餘軒日田御支配玖珠領久留島侯等入交の町也久留島侯御參勤には此浦より御船に乗らせ御登り有事也

〔豊後紀行〕此百二十年前自元祿七年の事なりしに別府の邊大地震して古へ有し別府村悉く海と爲る古への別府村は今の町の數町東にあたる其頃村の西なる温泉は今潮干の瀉の中に出づ

〔西遊雜記〕別府といふ町に至る長々敷在町にて家毎に湯あり此湯泉は熱からずぬるからず痔腫物に功有連入湯のもの來ル所也

〔西遊雜記〕佐賀の關より曰杵城まで行程五里といへども定かならぬ山道濱道にて遠し戸次村杯といふあり大友家戸次氏の出所といふ曰杵城は往昔大友の眞鳥と云し人の事跡ありとも云ひ天文の頃は府内大友の隠居城と稱して宗麟も老後此地に居城有しといへども四方のかためもよき要害の城にて風景も圖略の圖のごときの所なり